

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



兵庫県加古川市加古川町稲屋に建つ錦備分教会。その歴史は大正6年に遡るが、大教会史に誌された教会設置に至る経緯は、親神の不思議な導きによる外はなく、改称・移転・任命、何れの出来事も不思議な縁を感じる。

立教 181年
9月号

布教推進講習会開催

8・21 祭典後

布教部



飾大分教会長 竹川東一郎先生

8月祭典後、飾東部属・飾大分教会長、竹川東一郎先生を講師に、布教推進講習会が開催されました。本講習会は、9月ののをいがけ強調月間を前に、積極的な布教活動が実施できるようとの狙いで行われました。

竹川先生は冒頭「布教ということを考えてときに、こうでなければならぬ、こうあるべきだと、つい自分なりの先入観を持ってしまい、その先入観

が逆に苦手や不得手や、嫌いやと思ってしまう原因になっていることがあると思います。しかし、布教には特定の形はなく、どんな形であつてもいいんだと思うのです。今日は少しでもそのヒントになればと思ひ話を進めさせていただきます。」と述べられ、自身の布教経験を諄々とお話くださった。

竹川先生は32才の時に会長を引き継ぎ、意気揚々と会長の務めに励んでいた矢先、家族をはじめ、住み込みさんが次々と赤痢にかかるといふ節を見せられていた。保健所からは、感染を防ぐため教会に人を寄せないようにと指導が入った。教会は、人に寄つてもらうところ、喜んでもらう所だと思つていました。その後、夫婦で反省もし、さんげもして、神様の思ひはどこにあるのかを模索したが、その間、悪いこと探ししかできなかった。結果、何を考へても喜べず心倒す日々が続いたそうです。そんな中前会長様が、東中央大教会初代会長柏木庫治先生の言葉である「教祖の教えを人の口から口へ、胸から胸へ伝染病のごとく伝えさせていただく」といふ話を聞き、今まで喜べなかつた伝染病といふ節がストンと胸に治まったそうです。

その後は、にをいがけをすれば親神様、教祖が喜んでくださる、という思ひを胸に、難波の繁華街での路傍講演を積極的に実践しました。身上事情という節は、親神様、教祖の思ひが込められており、親心が込められています。一人ひとりの成人を望まれる親心故の叱咤激励である、と感じることが大切だと示されました。

神名流しや路傍講演を実践する中に、様々な事柄を見せていただいているが、なにも良い話をしなければならぬという事ではなく、「天理教です」「陽気ぐらしです」の一言でも良いから自信を持つて胸を張つて、ニコニコと実践させてもらうことを心がける中に、ご褒美としてお見せいただいていると思うと述べられ、教祖伝逸話編44「雪の日」を引用して話を進められた。文中、増井りん先生が、風雪の中を橋の上に這いつくばつて「南無天理王命」と唱える姿を、教祖は「喜んでいたな」と受け取つて下さるんだといふことを考へたときに、神名を唱え、流し伝える姿こそ、教祖に受け取つてもらえる姿だと述べられ、難しいことを考へるのではなく、ただ神名を流すだけでも十分だと、私たちが激励下さつたよう

に思ひます。

話はミヤンマー布教にも及んだ。ある日、炎天下の中を交差点で神名流しをおこなつた。言葉が分からないのでおつとめの地歌だけを歌っていると、途中コップに入った水を持ってきてくれる人がいた。その後もジュースや野菜、中にはお金を持つてきてくれる人まででてきてくれ、その中の一人におさづけを取り次ぐ事もできた。その後、瞬く間に十数人の人に取り次がせていただくことができた。言葉は通じなくても、ただ神名を流していただけたが、教祖の先回りのお働きを見せていただき、感動で胸が一杯になる出来事を話された。

またある日のこと、神名流しをしていると、涙を流している女性に出会つた。何故泣いているのか尋ねてみると、みかぐらうたを聞いて自然と涙が出てきた、と話された。非常に稀な人かもしれないが、教祖の思ひに魂を揺さぶられる人がいるならば、教祖に息をかけたいただけるのを待つている人がいるならば、私たち一人ひとりが自分ができるにをいがけを勇んで努めさせていただく、と講話を閉めくられました。(布教部長 田中隆之)



学生生徒修養会高校の部」受講者達

おやさ

学生生徒修養会

高校の部 受講

8月9日〜15日

立教181年「学生生徒修養会、高校の部」が、8月9日から15日にかけて親里で開催され、全国各地の道につながる高校生858人、うち笠岡からは8人が受講した。

受講回数によって組を編成していた学修・高校の部では、「より多くの高校生に、おちばで教えを学び、道の仲間

とつながってもらいたい」と、昨年からの学年別のプログラムで実施されている。

プログラムは、本部朝づとめに始まり、「レクチャー(講義)」「おつとめ勉強」「鳴物練習」「ひのきしん」など、学年全体行事のほか、学年別プログラムとして「ワークショップ」や「史跡めぐり」なども実施された。

受講した道の高校生らは、1週間にわたって各プログラムや合宿生活を通じて、教えを学び、祈り、仲間と語り合った。

参加者の声

海松ヶ岡分教会 森本陽気 (高1)

僕が学修で心に残ったことは、全国から来た友達と仲良くなれた事です。また、授業も寮も楽しく過ごせたことで、コミュニケーションをとることの大切さを学びました。そして、何事もあたりまえじゃないから、感謝する大切さを教えてもらいました。

学修に行く前は嫌で嫌でしょうがなかったのと、不安ばかりでしたが、終わってみれば一瞬の事に感じ、もつとみんなと過ごしたいと思いました。

前奥様五年祭を控え 合同ひのきしんを実施

管理部(虫明立生部長)、布教部(田中隆之部長)、青年会(上原明勇委員長)は、8月19日、月次祭と大教会4代会長夫人・上原せい子様五年祭を迎えるための準備を15で行った。客殿から墓地まで手分けをして草刈り、剪定、道路清掃など普段なかなか行き届かない敷地内管理をした。次回は29日の年祭前日に仕上げのひのきしんをする事を申し合わせて解散した。



客殿での草刈り

雅楽講習会 開催

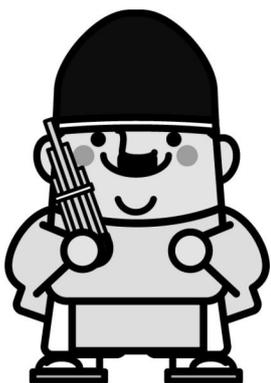
8月30日〜31日

雅鶯会

雅鶯会(中島誠治楽長)は、8月30、31の両日、世羅町の世羅西キャンプ場で夏季講習会を開催。講師3人、受講者10人が参加しました。

この度は、年祭などで演奏する双調の曲を中心に練習をしました。今回の講習会のねらいは、基本にかえり一歩進んだ雅楽を目指そうということで、一泊二日のプログラムは、笙・箏・龍笛の講師による、きめ細かく熱心な指導をいただき、受講者一同はそれぞれに歩を進めることができました。思います。また今回は、バンガローでの全食自炊ということで、料理に腕利きのY会員を中心に作った創作料理をいただき、充実した講習会でした。

(楽長 中島誠治)



サマーキャンプ 開催

8月21日〜23日

少年会



神苑での飯盒炊さん

少年会笠岡団(武内正美団長)のサマーキャンプが、笠岡大教会を会場に少年会員24人、育成会員15人の参加のもと、8月21日から23日の日程で開催されました。当初の予定では、広島県竹原市の大久野島において開催予定でしたが、台風接近に伴い急遽大教会開催に変更致しました。急な変更にも拘



食事の準備も役割分担して手際良く

わらず引き受けて下さいました大教会、また開催場所が変更になっても楽しみに参加してくれた少年会員に御礼申し上げます。このキャンプは、火・水・風の親神様の御守護を肌を感じると共に、たすけあいを実践し、そこに喜びと感謝を体得する、少年会員の育成を目的に実施された行事です。

今年、大教会の祭典終了後、14時30分より開講式を行い、続けて入村式を済ませた後、天候の関係で大教会の講堂に皆で協力してテント設営を行



出っ来上がりい〜!!

いました。初参加の子も居る中、育成会員の指導のもと、わかぎをリーダーに、たすけあいの精神で無事に組み立てました。テント設営後、夕食のBBQ(バーベキュー)の準備に取りかかり、自分達の食べるお米を飯盒炊さん(はんごう炊さん)をしました。火を起こす子、お米を研ぐ子、食器の準備をする子と、それぞれに役割分担をしました。無事にご飯も炊き上がり、普段とはひと味もふた味も違う夕食を堪能しました。夕食後はおつとめ、そして夜には涼を求めてきもだめし。大きな悲鳴を上げる子も居れば、涼しい顔でおばけ役の先生をおちよくる子も。藪の中、子供達を待ち受けていたおばけ役の先生方は、あちこち蚊に刺されながらも、子供達の楽しそうな表情を見て、痒さを忘れるくらいの喜びでした。1日の終わりにテントで就寝。いつもと違う環境や、友達が周りに居ることで、つつい夜

更かしをする子もちらほらと。

2日目は朝のおつとめ後、朝食作り。前日の経験を活かしての飯盒炊さんは手際良く済ませ、お味噌汁も作りました。自分で味付けしたお味噌汁の味は、多少しょっぱくても、薄くても格別なもの。朝の腹ごなしも終えて、心待ちにしていたプールへ。少し肌寒い中でしたが、そんなことは気にも留めず子供達は大はしゃぎでした。昼食に本部班の準備をしたカレーを。大人用の辛口を喜んで食べる子も。昼食後は夕食の料理コンテストのメニューを相談し、3千円の予算で、頭を悩ませながら必要食材を計算して買い物をしました。料理コンテストでは、便利なガスではなく慣れない薪での煮炊き、悪戦苦闘しながらも仲良く協力しながら調理をしました。ハンバーグ、チャーハン、ピザ、餃子、ポテトサラダ、フルーツサンド、アイスを使ったデザート等々、見た目も味も素晴らしい、子供達らしいアイデア満載な料理の数々でした。班ごとに料理のテーマや工夫した点を発表して、いよいよ採点に。どの班も甲乙付けがたい、実に素晴らしい、美味しい夕食でした。そして夜には、キ

キャンプの醍醐味キャンプファイヤー。燃え上がる火を囲んで、育成会員による歌やゲームで盛り上がり、班ごとに練習をしていた一芸を披露。手品や、流行の芸人のギャグ、歌いながらのダンスなど、はにかみながらも班の仲間と共に場を盛り上げました。2日目の終わりは連日の疲れからか、昨晩よりも静かに、ぐっすりと就寝。

3日目の朝は新たな台風の接近もあり、予定を早めに切り上げ全員で協力して撤収作業。3日間キャンプで使わせて頂いた物品を、来年も又仲良く使わせてもらえるように、丁寧に整理整頓して片付けをしました。撤収後、本部隊が準備をしたホットドッグを食べ、閉講式を神殿で行い、2泊3日のサマーキャンプの全行程を無事に終了しました。

急な会場変更や、天候の不安もある中でしたが、大きな事故、病気や怪我もなく、皆、元気に親神様の御守護のもとお連れ通り頂きました。ありがとうございました。また御協力頂きました各方面の皆様方、誠にありがとうございました。来年も元氣いっぱいの子供達に会えるのを楽しみにしています。(少年会委員 岡崎 治 喜)

4代会長夫人・ 上原せい子刀自五年祭執行

8月29日、午前11時より大教会祖霊殿で大教会4代会長夫人上原せい子様
の五年祭を大教会世話人・島村廣義本
部員齋主のもと、家族、親族、大教会
役員、部内教会長、よぶぼく、信者ら
多数が参拝し肅々と執り行われました。

祭員は次の通り。祭主、島村廣義先生。
副祭主、中村剛。扨者、門脇元教・今



厳かに執り行われる五年祭

川昌彦。賛者、浅野明教・虫立生。
献饌補助、上原繁次・岡田誠。



ご挨拶される大教会長様

毛布襟付けひのきしん

9月3日・4日

婦人会

婦人会笠岡支部(上原きよ子支部長)は9月3、4の両日、大教会講堂で、詰所宿泊者用290枚・大教会信者室用60枚の毛布襟付けひのきしんを行った。3日は午前9時から午後2時30分頃まで約60人、4日は午前9時から正午まで約50人が参加した。また、現在、高屋分教会で教会実修

をしている天理教校本科実践課程の3人も参加した。4日、昼食後、解散した。



得意の手仕事を生かしてひのきしん



本科生も黙々と

若人のつどい開催

弟子会長
教育委員会

9月2日、教会長子弟育成委員会(森本忠善委員長)は、大教会で「若人のつどい」を開催し、18才から50才までの77人が受講した。

開講後、大教会長様の講話が行われた。「元の理」に込められた親心についてのお話には、受講者は熱心に聴き入った。続いて、「子育て」「夫婦」「親孝行」「人間関係」の4つのコースの班毎に、すぐろくトークが行われた。



大教会長様の講話に聞き入る参加者たち



託児を任せて心おきなく受講



コースに別れてのすぐろくトーク

昼食には、婦人会によるワンプレートランチが振る舞われ、会話も弾むランチタイムとなった。
午後からは、田中つかささん(福山



和やかな雰囲気の中での感話



婦人会によるワンプレートランチ

分教会長夫人)、枝廣正寛さん(東福山分教会長子弟)の2人が、自身の体験を交えながら感話を行った。その後、感話、後継者講習会のふりかえりの時



決意も新たに終講の時を迎えた



ふりかえりタイム

間が、設けられた。
最後に受講者は、日々の陽気ぐらしを実践する上での、自身の目標を定め、決意を新たにしました。

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理 慎んで申し上げます

親神様には一列子供「陽気ゆさん」を楽しみに 親心一杯の御守護を下さっております 中でも今は昼間蟬の音がやかましいほど残暑未だ厳しい中にも 朝晩は多少涼しくなり虫の音に癒やされ わずかでも秋の気配を感じる季節をお与え頂いております 又「とのよふな事をするのも月日にわたすけたいとの一ちよはかりで」と身上事情を通して心得違いをお教え下され 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々の生活の中で常に親心と御守護を感じ 日夜お礼を申し上げると共に ご恩報じを念じてたすけ一条のご用の上に努め励まして頂いております

その中にも今日の吉日は 月次の御祭りの日柄でございますので ただ今からおつとめ奉仕人一同喜び感謝の心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めて八月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には残暑厳しき中も厭いませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃のご高恩に改めてお礼申し上げます 尚も変わらぬ親心と御守護にお縋りする状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて西日本豪雨で被災された方々が 一日も早く心身生活共に復興できるよう御守護お導きの程をお願い申し上げます 又今年の子供おぢばがえりも大きな事故怪我もなくお連れ通り頂き誠に有り難うございました 豪雨災害で残念ながら参加出来なかった子供さんがおられました 被災したからこそ復興支援の一つとして参加出来たという子供さんもおられ 明暗が分かれてしまったのは残念でなりません 加えて英語講習会や学生生徒修養会高校の部も結構にお連れ通り頂き誠に有り難うございました 今後の丹精に力注いでゆく所存でございます 又本日より二十三日まで少年会サマーキャンプを行います 事故怪我など無いようお連れ通りの程をお願い申し上げます 更には又来月はにをいがけ強調月であり月末三日間は全教一斉にをいがけデーでございますので 本日布教推進講習会を開催させていただきます 勢いをつけて豪雨に込められた親心を胸に抱き助け合いの心を一人でも多くの人に写していけるよう にをいがけに邁進させて頂く所存でございます

何卒親神様には 皆のご恩報じに徹し「世界一列をたすけたい」との親心にお応えすべく たすけ一条に邁進する誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護をお現し下さり 真実の親心に触れ一列兄弟の理に目覚めて 共に欲を忘れてたすけ一条に邁進する人が弥増して お望み通りの陽気ぐらしの世の状が 一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてきましたので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽9月2日付「時報俳壇」

・ 備中◎ 塩飽利子さん
命日の夫の墓前に落し文

▽9月16日付「時報歌壇」

・ 芦品◎ 金谷眞佐代さん
今は何処すがた消したる我が娘
心定めて朝夕祈る

・ 海松ヶ岡◎ 池田広子さん
茹で上げし素麺瓜を冷水に

もどせばはらり解けて糸に

▼『陽気』誌九月号「道柳」より転載。

▽秀 詠

・ 東悠◎ 田林美智子さん
目に見えぬ真実の道理の世界

▼表紙写真(錦備分教会提供)



立教百八十一年 八月月次祭 祭典役割表

講 話	祭主	大教会長様	十月講話	賛者	森本忠善	大教会長様	役割	区分	地 方	おと とめ てを どり	笛	ちゃん ぽん	拍子 木	太鼓	すりが ね	小鼓	琴	三味 線	胡 弓		
	扨者	三島 浩		指図方	渡邊隆夫		坐り勤	佐藤道孝												前 半	後 半
	上原 浩	佐藤道孝		大教会長様	門脇元教		上原志郎	田中隆之												門脇元教	岡田誠



まわりみち

いつもいつもお世話になっておりま
す。

当教会の祭典も無事勤めが終り、
ほつとして中、明けて次の日。昼
頃から降り始めた雨が、まさしく経験
したことの無い降りかたで、教会の屋
根に話声が聞こえない位の音をたてて
何時間も降り続けました。

朝出かける準備をしていると、長男
が「道、通れんで」と。当教会は四方
山に囲まれて町から出て行くには道は
四本しかなく、まさに陸の孤島となり
ました。二日目の夕方やっと出れるよ
うになりましたが、この道が、なんと
山に登って行く道で何度も曲がり
りくねって車一台がやっとの道。左は
谷底、右は七〇度位の山の斜面、前方
は対向車がきてもぎりぎりまで見え
ず、暗くなると猪がでてくるまさに怖
い怖い道でした。約十分の道のりで、
くだった先に片側一車線のいつも見な
れた道と信号機が見えて来た時は、
ほつとしたような、また嬉しいような

気分になっていました。
この行き帰りが二週間もつづきまし
た。
おふでさきに「やまさかや いばら
ぐるふもがけみちも つるぎのなかも
とふりぬけたら まだみへるひのなか
もあり ふちなかもそれをこしたらほ
そいみちあり ほそみちをだんくこ
せばをふみちや これがたしかなほん
みちである」ときかせていただいでお
ります。
代々に渡り、私たちのおみちも、無
い道を何度もこのようなおみ
で通ってこられた道中だったのなか
と、浅はかなながら、今更に感謝して
おります。
只今は片側通行ではありませんが、普
段は渋滞、割り込み、のろろ運転な
ど不足に思いながら毎日毎日、行き帰
りをした道ですが、いまでは感謝、感
謝で通らせて頂いています。(M.H.)

